

2023_1107「劇的な月没（写真）」日々の理科 3379号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

浅間山の観測カメラは、とらえる範囲（画角）は非常に狭いので、月没を毎回とらえることはできません。「白道」（天球上の月の通り道）は、季節や月の形（月相）によって刻々と変化するからです。それでも、観測地（北軽井沢）から見て、浅間の山頂は西南西の方位なので、時々完全に山頂付近に沈む月の姿をとらえることがあります。

これまでの観測では、三日月前後の月は山頂付近に沈むことが多いことはわかっていました。満月は一度も山頂付近に沈んだことがありません。先日、珍しく半月（上弦）を少し過ぎた月齢約9の月が、浅間山頂付近に沈む様子をとらえました。これが実に劇的な光景でした。

月は浅間山の噴気に向かって突進し、噴気に透けるように真っ赤に染まって見えました。しかも月の光芒が噴気の外側に放射状に広がり、見たこともないような色と構図を創り出していました。月・浅間山・カメラが完全に一直線に重なった結果の、まったく偶然が生み出した奇跡です。

（2023年10月下旬／北軽井沢／東京から遠隔撮影）

